

＜学校経営方針の重点＞

- 1 学力向上 2 健全育成 3 組織運営・人材育成

学校評価シート

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
1 学力向上	① 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成 ② 主体的・対話的で深い学びの追究 ③ 学習習慣の確立	① 言語能力の育成 ② 年3回の公開授業の充実 ③ 「家庭学習ノート」の活用	① ⑦ 朝読書の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> 約9割の生徒が進んで取り組んでいる。 多くの生徒が開始時刻よりも早く着席し、読書を始めており、読書好きになった生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室で、教員のおすすめ本のコーナーを設置している。そのことを周知していくことで、読書活動の推進を図っていく。 保護者に向けても、取組をアピールしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 読書は興味を広げ、心にも脳にもよい。 読書感想を発表し合う場があるとよい。 集中して活字を読む習慣は、重要である。 継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の活動を継続していく。 教員の「おすすめ本コーナー」等を活用し、読書活動を推進していく。
			① ④ メモや原稿に頼らない話す力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で「ノー原稿」での発表の指導が徹底できている。 生徒によって個人差はあるものの、概ねよく取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に分かりやすい内容・話し方の指導も工夫していく。 全文を暗記するのではなく、要旨や順序をおさえさせ、自分の言葉で話せるよう指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な生徒に対する指導を工夫し、個々の目標の設定やメモ程度はもたせるのもよい。 スピーチの力は社会に出てからの自信になるので、継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の状況に合わせた指導を行っていく。
			② 「授業PRカード」の観点を生かした授業創造	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業に向けた主体性については8割、保護者の授業満足度は9割の肯定的回答が得られた。 観点を明確にすることで、授業者にとっても参観者にとってもポイントが明確になっていてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も授業PRカードの観点を意識して授業改善を行っていく。 次年度は、新学習指導要領の全面実施に伴い、新たな観点を意識した授業改善を行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ポイントが明確になることで、教員の授業力向上に向け、効果も出ている。 普段の授業にも生かし、新学習指導要領の新たな観点を意識した授業改善を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業PRカード」の改善を図り、より充実させていく。
			③ 「家庭学習ノート」に基づく学習支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習ノート」は、学習の方法や習慣の確立に、生徒及び保護者の約7割が肯定的であった。 学習効果を実感している生徒が、増えつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年によって取組に差が出ないよう、学校として見直しを行った。 自分で課題設定のできない生徒に対する支援として、課題を提示したり補習を行ったりする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣は重要である。 ノート点検では、ポジティブな助言を期待する。 学習方法が分からない生徒への支援の工夫が必要で、よい取組を紹介するなどともよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発達段階に応じた指導を行っていく。 学習方法が分からない生徒への支援を積極的に行っていく。
2 健全育成	① いじめ問題への対応 ② 不登校の問題への対応 ③ 社会において自立的に生きる力の育成	① 未然防止に向けた取組 ② 継続している不登校の解消および新たな不登校を生まない取組 ③ ⑦「3ない」運動の推進 ④ ④ 自治的活動の促進	① 学校いじめ対策委員会の週ごとの実施	A	<ul style="list-style-type: none"> 対策委員会でのスクールカウンセラーからの助言は、その後の対応の参考になっている。 「学級は安心できる」という生徒が9割弱であり、いじめが起こりにくい環境になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも、スクールカウンセラー等の専門家と連携して対応していく。 他者と上手に折り合いを付けるためのソーシャル・スキルの指導を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> よい状態であることが分かる。 学校が一体となって対応する体制ができています。 今後も、生徒の変化を逃さない対応を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャル・スキルを高める指導を充実させる。 スクールカウンセラー等との連携を推進し、組織的に取り組んでいく。
			② 毎朝の幹部会、週ごとの運営委員会での情報共有と特別支援部会での対応策の検討	A	<ul style="list-style-type: none"> 幹部会や運営委員会での情報共有、スクールカウンセラー等との連携により、不登校が習慣化する前に対応できた。 自己肯定感の低い生徒は減少したが、まだ3割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の長所を認めて伸ばす指導を行うとともに、課題については声掛けの仕方を工夫していく。 全ての生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を高め、自信をもって行動できる資質を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の問題にも丁寧に対応し、とてもよい。 生徒の心と外部環境への働きかけの継続を望む。 多様性を認め、自己肯定感を高める指導を学校全体で継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、丁寧な対応を心掛ける。 生徒個々の課題を明確にし、共通理解の下、粘り強く対応していく。 自己肯定感を高める指導を継続する。
			③ ⑦ 道徳授業地区公開講座（意見交換会）の協議および委員会活動の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座の意見交換会は、新たな気付きを促すよい機会になっている。 7割の生徒が「3ない」運動を意識した行動を心掛けており、各委員会活動においてもこの運動と絡めた活動を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座の意見交換会に保護者が参加しやすいテーマ設定、環境づくり、地区懇談会とタイアップした実施について検討する。 各委員会活動は良好であるが、「3ない」運動と絡めた活動を更にアピールしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「3ない」運動は、一中の伝統ともいえる取組で、大人も学ぶべきと感じる。 感謝の気持ちや「もったいない」は、地球規模で大切である。引き続き実践し、大きな運動にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座の意見交換会を工夫し、地域・保護者と連携した指導を行う。 引き続き、生徒主体の「3ない」運動を推進する。
			④ ④ 学級活動や各種実行委員会活動における自治的能力の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> 係や当番などの活動に積極的に取り組む生徒が約9割に達し、責任感や協力が育っている。 指導が功を奏し、実行委員や学級委員等のリーダーと他生徒のフォローアップも育った。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動等、生徒の活動を通して生徒をほめる機会を増やし、自己肯定感や積極性を引き出す。 教員がやり過ぎず、生徒が取り組めることで、生徒の活躍の場とし、自治能力を促進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 任せることによって責任感が育ち、活躍の場は自信につながり、協力し支え合う精神も育つ。 今後も主体的に関わり、自らが各取組を作り上げている実感が得られるよう、実践してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活躍を引き出し、褒めて伸ばす指導を継続して行う。
3 組織運営・人材育成	① 目標への意思の統合 ② 計画的な人材育成 ③ 効率的な組織運営	① 学校としての資質・能力の育成 ② 教育課程・教育経営に係る専門性の向上 ⑤ 働き方改革の推進	① 「学校のグランドデザイン」の活用	B	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザインが、各行事の取組の中に明確に位置付けられており、その徹底が図られている。 様々な場面でグランドデザインを目にすることで、意識が高まり浸透している。 	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザインに記された資質・能力の育成について、取組後に振り返りの場を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザインに対する教員の意識が高い。 明確な目標をもって取り組むことは大切で、生徒にも理解しやすく説明しつつ、この取組を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と目標を共有できるよう工夫し、取組後の振り返りの場を設ける。
			② 「運営委員会だより」による「ユニット研修」の実施	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後の教育の方向性についての理解が進む。 情報が毎週少しずつ出されるため、無理なく理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「運営委員会だより」発行の意義についての意識に個人差があるので、必要に応じて管理職から説明を加える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生の方針の浸透や教員の意識向上には必要な取組と感じるので、今後も継続してほしい。 新学習指導要領の全面実施に向けた研修になっていてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も教員の能力を最大限引き出せるよう、「運営委員会だより」及び「ユニット研修」を充実させる。
			③ ⑦ 長期休業中の職員会議、学年会およびOJTの円滑な実施	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画的な運営委員会ができず、学年会の意見を運営委員会で生かせなかった。そのため、学年会の場が学校運営力育成につながらなかった。 OJTも計画どおりに実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会と運営委員会を有機的につなげられるよう、運営委員会を計画的に実施する。 職員会議の設定を工夫しながら、効率化と分かりやすさを高める。 遅れてでも、必要なOJTは実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で説明を受ける場が限られたため、十分に理解できない部分もあった。 OJTの体制が整っているため、今後とも効率的で効果的な人材育成を推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の効率化を推進するために、現体制の有効活用について、教員の理解を図る。 計画的な人材育成に向け、引き続きOJTの組織的な実施を推進する。
			④ ④ 提案資料のポイント明示および説明の簡素化による会議の効率アップ	B	<ul style="list-style-type: none"> ポイントが明示されていることで、非常に分かりやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化についても検討していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 要点をおさえた資料作りは、発信する側も受け取る側も理解が高まる。 会議の有効化や効率化が図れたのは大きいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、会議の有効化・効率化を図るため、ポイントをおさえた提案を推進していく。